

はじめに

看護部 竹股喜代子

亀田メディカルセンター看護部門は当センターの理念に則り、「全ての人々に最高水準の看護サービスを提供すること」を目指しています。その看護サービスとは先ず、「看護スタッフが常に患者さまやそのご家族の傍らにあること」、そして高い専門性に基づいた評価のもとに「必要な援助内容と方法を見いだすこと」、さらに「卓越した技術で」「喜びを持って」看護実践を行うことです。そしてこの実践は結果として、患者さまから信頼とご満足をいただけなくてはなりません。そのために看護スタッフには、「人を大切にできる心を持ち続ける」「常にチャレンジ精神を発揮して物事に取り組む」ことを基本姿勢にして、患者さま第一優先を貫いた看護実践をひとつひとつ積み上げ、自ら評価し、さらに向上することが期待されます。

本年度は待望の全棟個室型の入院棟(Kタワー)を開設することができました。当センターの基本理念である「患者さま中心の医療」の具現化を目指した新たなスタートの年でした。そして6月にはこれも当センターの初めての取り組みである精神科病棟をスタートさせました。

これらの取り組みに対し、初めての経験ゆえの問題が多々ありましたが、職員の意欲的な活動により思った以上の成果をあげることが出来たと思います。

そしてさまざまな特徴の病床を効率的に活用するために、看護部門主導のベッドコントロールセンターを立ち上げました。今年はICU、CCU、HCU、救命救急など、病床の使用基準に則った運用を効果的に行えたかどうかの評価を行う年にしています。

今年も11の委員会、1つのプロジェクトが目標管理型の活動を行い、質向上に貢献しました。

当部門の大きな取り組みの一つである継続教育は、当院オリジナルのキャリア アドバンス システム(キャリアラダーの考えを基に個々のナースが専門職として明確な目標をもって主体的に継続学習を目指すことを支援する看護実践評価システム)を中心に据えたプログラムを活用して職員の自己啓発を支援しました。本年度は新たに「ナースのための薬学コース(45時間/全10回)」を薬剤部の協力のもと好評のうちにほぼ終了することができ、これで系統的継続教育プログラムは、感染・WOC・管理・教育(対象/看護師)・教育(対象/看護学生)・研究・緩和ケアと8コースになりました。

当院の継続教育における特徴は、「高度専門職研修センター」の活動です。これは生涯にわたり様々な段階、様々な種類の学習が、個人のその時のニーズに合わせて行えるような支援を目的としており、現在は放送大学受講支援から、高度専門職教育講座の開催まで幅広い活動をしています。特に管理職を目指す専門職のためのコアカリキュラムは、今年は当部門の主任職中心の参加で、6回目を終えています。フィジカルアセスメントのワークショップも第11回目が終了しました。そしてもう一つの特徴であるTTSP(Transdisciplinary Transition Support Program)を土台にした看護職のレジデンシープログラムは3年目を迎え、いくつかの課題を抱えつつも、研修生は順調に育っています。

継続教育の成果は、専任のWOCNやICNそして禁煙支援外来や糖尿病支援外来の看護職の活躍です。昨年は、当院所属の米国呼吸療法士による院内勉強会を15回にわたり開催し、19名もの呼吸療法認定士を育て、今年はさらに15名が加わりました。

昨今の医療現場としては最大の課題である医療事故防止のため、専任のセーフティマネージャーのもと今年も事故レビューに力を入れて取り組みました。結果として、目標であったレベル3の事故を減らすことが出来ました。しかし、まだ課題が山積しています。来年度もさらに効果的な取り組みを目指します。